

使徒言行録 2 章 22-36 節 「教会の使信」

今日の箇所はキリスト教の教会の初めての説教です。ペトロが語ろうとしているのは、誰かを叱るための説教ではなくて、主イエスについて明らかにし、人々を主イエスへ導こうとする説教です。ペトロの説教以降、いつの時代も、世界中のどこの教会でも、説教は礼拝の中で語られてきました。説教とは、一つのことを伝えるために語られています。それは、「神の偉大な業」のこと、「あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさった(36 節)」ということです。これはペトロの時から現在まで、教会で語られ続けていることです。そしてイエスが主であり、メシア(救い主)であるということこそが、わたしたちへの良い知らせ、「福音」なのです。

ペトロは「あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです」ということを知ってもらうために、語り始めました。イスラエルの人々はメシアを待ち望んでいたはずなのに、あなたがたがその方を拒み、あなたがたが十字架につけて殺してしまったのだ、とペトロは伝えます。神が、自分たちを救うために遣わして下さった方を、自分たちで殺してしまったとは、神に対する何という反逆でしょうか。でも、十字架につけられた方が、神から遣わされた方だと知った今、その方を十字架につけて殺した責任を、自分が負っているのだと言われたのです。自分が、神の御子を十字架につけて殺した。そう自覚させられるのです。そしてこれは、ここにいるわたしたち一人一人にも突き付けられていることです。ペトロの言葉は、わたしたちにも向けられています。ペトロは、この主イエスの十字架は、神がお定めになった計画であったと語ります。神が選ばれた民を救おうとされるご計画に定められていたことでした。本当はわたしたちに向けられるはずであった、神の激しい怒りの裁きを、主イエスが引き受けて下さったのです。すべての人の罪を赦し、救う。それが神のご計画でした。

ペトロは語ります。神のご計画によって遣わされたイエスを、あなたがたが十字架につけた。しかし主イエスは神に復活させられ、天に上げられ、聖霊を送って下さった。そうして主イエスの出来事が聖霊を受けた人々によって語られ、証される。主イエスの名を呼び求める者に救いが与えられる。そのように、預言された通り、神の救いのご計画が進められている。あなたがたは、その出来事を、神の偉大な御業を、見聞きしているのだと、ペトロは人々に語っているのです。

36 節で「だから」とペトロは言います。これこそが、ペトロが知って欲しいことです。「主」とは、神のこと、「メシア」とは救い主、キリストということです。主イエス・キリストの十字架と復活によってのみ、わたしたちは悲惨から救い出され、罪と死から解放されます。この方にのみ、永遠の命と復活に与り、神と共に生きる者とされる、慰めと、平安と、希望があります。ペトロの初めての説教から、今日まで、すべての教会は、この福音を説教し続けているのです。主イエスが聖霊を送って下さって起こった事は、まさにこの福音を語ることに、そして地の果てまで、主イエスの救いをもたらすということなのです。